

令和7年度 農村RMO中央研修会（東日本）

2025.09.04



# 伴走支援と農村RMO

若菜 千穂

特定非営利活動法人  
いわて地域づくり支援センター  
常務理事 / 博士（農学）  
wakana\_2005@iwa-c.net  
<http://iwa-c.net/>

# 目次

## 1. 地域づくりの始め方

階層別の始め方

## 2. 事例の紹介

## 3. 質疑応答・意見交換

イイテンキデスネ～



# いわせんの紹介

## ■ センターの概要

- 岩手大学農学部（元）教授が創設
- 平成17年設立
- 専従職員 3 名 + 代表理事

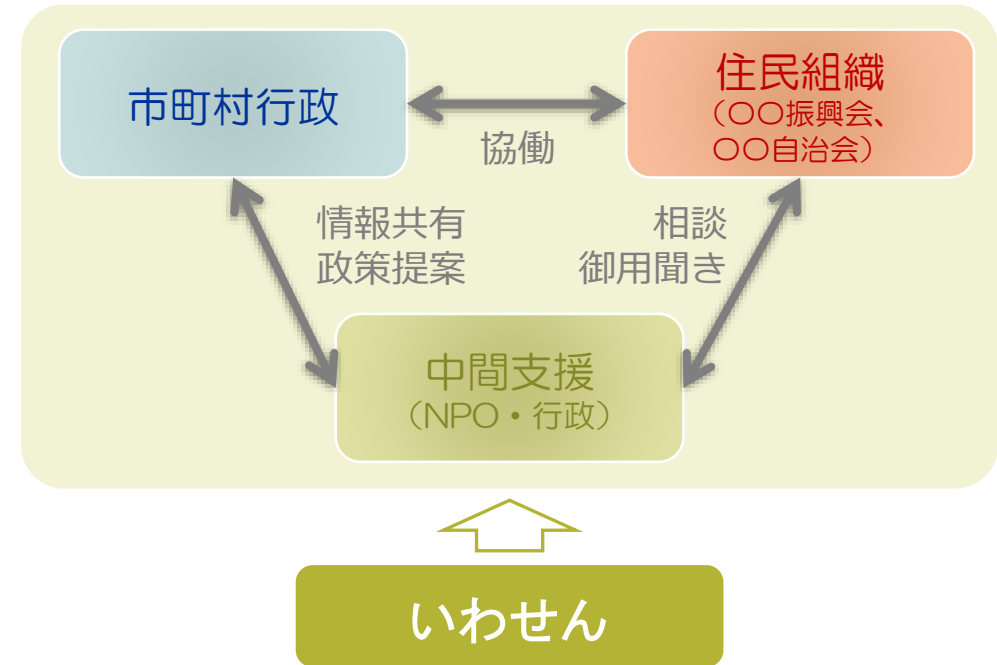
## ■ 主な仕事

- 住民主体の地域づくり支援（地域運営組織、農村RMOなど）
- 農村交通づくり支援
- 中間支援人材の育成

## ■ 自己紹介

- 茨城県取手市出身
- 大学進学を機に岩手へ
- 札幌でコンサル後、岩手に1ターン
- 花巻の農村に暮らす

### ➤ いわせんの立ち位置



### ➤ いわせんの仕事の広がり







# はじめ方と続け方

階層別の支援



# 農村地域とは ～地域の階層性～

小学校区  
地区公民館区

〇〇振興会

500～数千世帯

小学校、保育園  
地区公民館、駐在所

地区民運動会、文化祭、  
スポーツ大会、学校行事

新・  
コミュニティ



自治会対抗の  
地区民運動会

自治会  
町内会  
行政区

A自治会

B自治会

C自治会

50～200世帯

自治会総会、子供会  
自治公民館、衛生組合、  
消防団、テレビ組合

新年会、神社の祭り  
花見、さなぶり、水路掃除  
子供会行事

旧来の  
コミュニティ

神社の祭り  
(火防祭)



集落・班

い集落

ろ集落

は集落

10～30世帯

班長、隣組

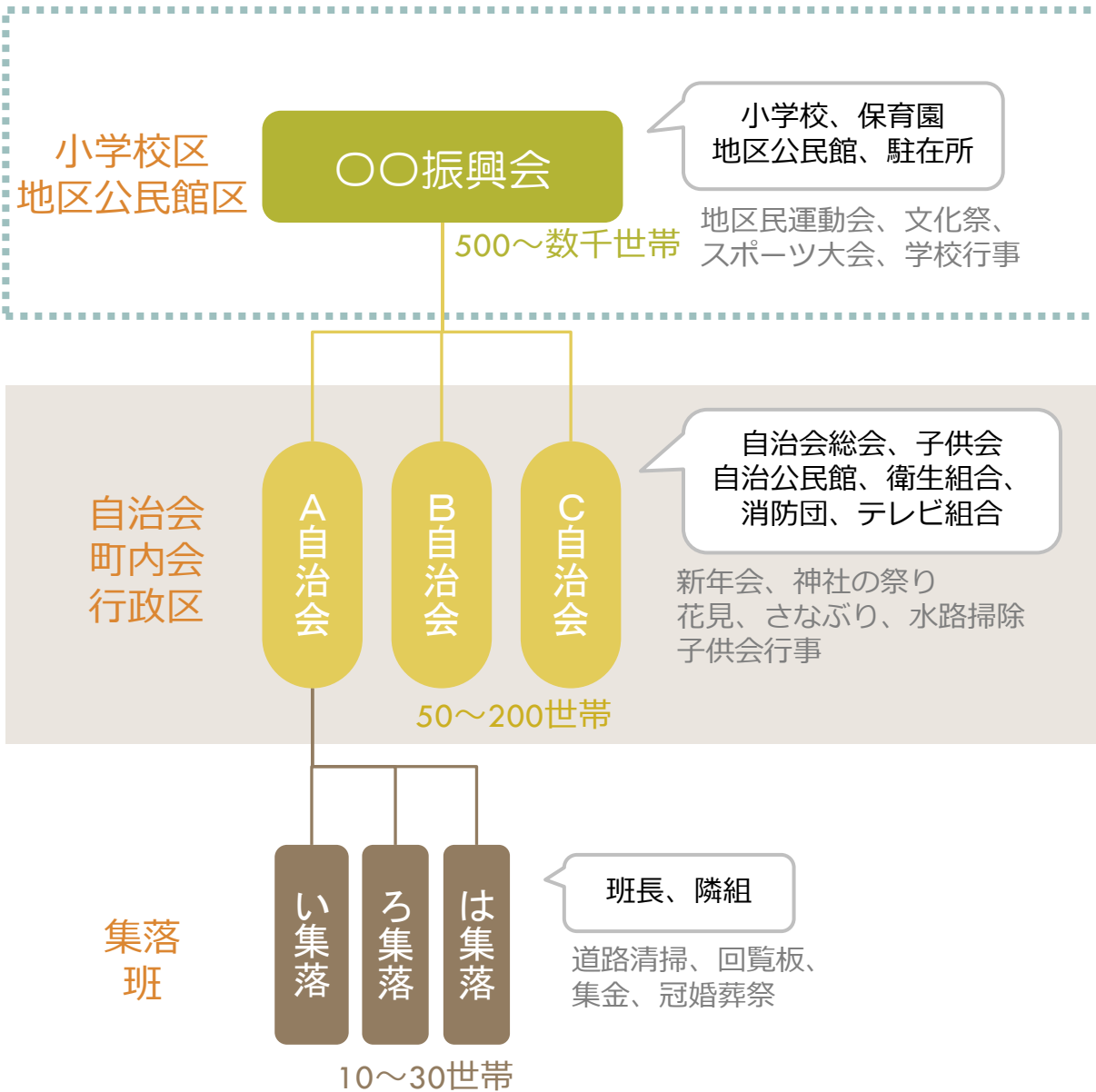
道路清掃、回覧板、  
集金、冠婚葬祭

親戚  
づきあい



土水路の泥揚げ

## 2つの地域づくり



自立的・主体的・持続的な

### 生活課題の解決

- \* 空き家、古民家をリノベ
- \* 鳥獣害対策でジビエ
- \* 移動支援 などなど

OODA

まずは、

### 顔が見える関係づくりの復活

- \* 楽しい活動の再開
- \* 飲み会、BBQ

PDCA

# はじめ方支援 A ～旧来のコミュニティ/PDCA～

■ いわせんの支援方法は【3年ひと区切り】

一年目

1. 進め方を決める
2. 地域をみんなで知る
3. 取り組みメニューを決める

二年目

4. 実践をしてみる
5. ふりかえり、改善する

三年目

6. また、実践をしてみる
7. ふりかえり、改善する

いわせんがお客さんになれば合格

☆いわせんの理念Ⅰ

“地域づくり”の目標は、  
地域の困りごとを自分たちで  
解決する力が育っている状態

☆いわせんの理念Ⅱ

“地域づくり”は  
食べたことない料理

☆いわせんの理念Ⅲ

“地域づくり”は  
スポーツと一緒に





# 1 年目

## ①進め方の相談

～8月

- 地域の困りごと、ゴールイメージの確認



## ②集落点検

10月

- 撮ってきた写真をマップにしてみる
- 「良いところ」「直したいところ」を出し合う



## ③夢語り・ほら吹き大会

11月

- こんな地域になったらいいな
- みんなでやってみたいこと



## ④やりたいことの絞込み

12月～2月

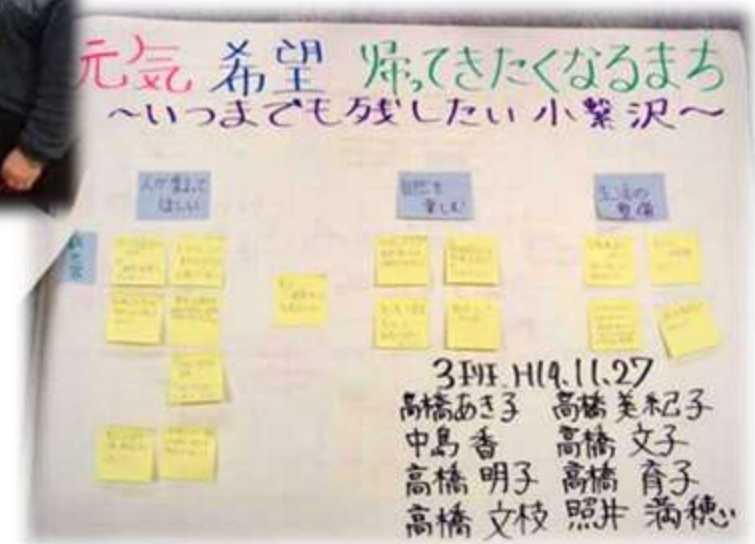
- 優先順位をつける
- 個人投票も楽しい

## ⑤実施計画を立てる

3月

## ⑥実際にやってみる

6月～





# はじめ方のコツ ～集落点検～

■地域をみんなで歩く、見るのが効果的。外の人と一緒に。

## ●集落点検のやり方

- 9:30～10:00 集合・やり方の説明
- 10:00～11:30 集落点検
- 12:00～13:00 みんなで昼食
- 13:00～15:00 お宝カードづくり
- 15:00～ 発表会

### 事前準備：

歩いて1.5kmのルートを設定  
チーム分け（地の人と風の人）  
地図、カメラ、画板

### 歩きながらやること：

ひとりが「いいね」と思ったものを撮影 → 場所を地図に落とす

### お宝カード：

発見したものの概要  
活用や改善方法を考える。



# 合意形成のコツ

## ①進め方の相談

～8月

- 地域の困りごと、ゴールイメージの確認

## ②集落点検

10月

- 撮ってきた写真をマップにしてみる
- 「良いところ」「直したいところ」を出し合う

## ③夢語り・ほら吹き大会

11月

- こんな地域になったらいいな
- みんなでやってみたいこと

## ④やりたいことの絞込み

12月～2月

- 優先順位をつける
- 個人投票も楽しい

## ⑤実施計画を立てる

3月

## ⑥実際にやってみる

6月～



属性にも配慮  
ほぼ全員参加

必要に応じて  
全戸アンケート

個人投票も効果的

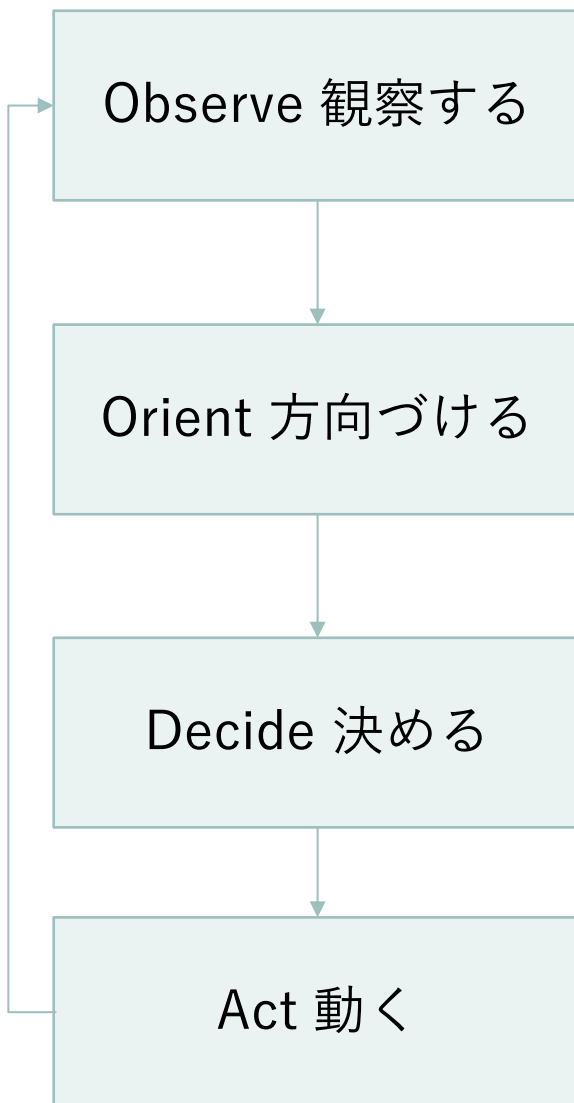
(自治会の場合)

- ◆ 同じ場所でテーブルを分けて。
- ◆ それぞれの世代や属性の意見を聞き合う。
- ◆ 世代を超えた“対話”のトレーニング





# はじめ方支援B ～新コミュニティ/OODA～



- 自治会・団体ヒアリング
- 関係者分析
- 人口推計

- 進め方を決める・合意する
- 集落点検ワークショップ
- 住民アンケートⅠ
- 事業・行事の整理

- 計画づくりワークショップ
- 住民アンケートⅡ

- 組織の改編
- チームでの実践



チームでの活動を実施し、やりたい活動だけ参加できる仕組みをつくる。  
LINE等も活用し、自主運営で。

合意をとりすぎない。

「人」に注目する。  
関係者分析をきっちり行っ  
たうえで、戦略を練る。



行政職員の研修も実施する。



形式的な段取りも必要  
であれば実施する。

## ■ 自治会・団体ヒアリング

➤ 質問表での役員に対する聞き取り

- 自治会費や収支状況
- 役員の種類と人数と謝金
- 年間の行事、なくなった行事
- 青年会や女性部、子ども会や老人クラブなどの有無
- 課題と感じていること など

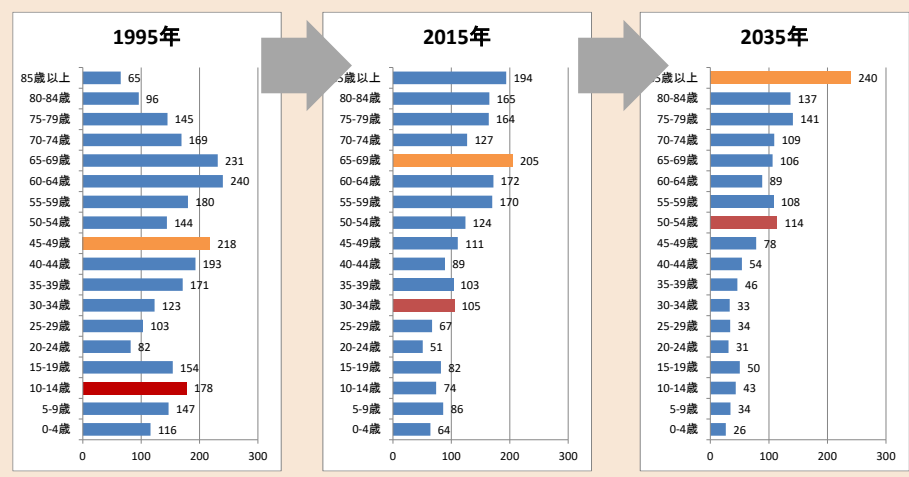
## ■ 集落点検ワークショップ

➤ 住んでいる人と外の人と歩く



## ■ 人口推計

➤ 今と次の世代の環境違いの理解



## ■ 既存の行事・事業の整理

- 年間行事の洗い出し
- 主催者別（動員行事など）
- なくなった行事、新行事
- 時期の重複 など

既存の行事や役職を減らし  
新しいチャレンジが  
できるようにする







## 事例の紹介

奥州市伊手地区



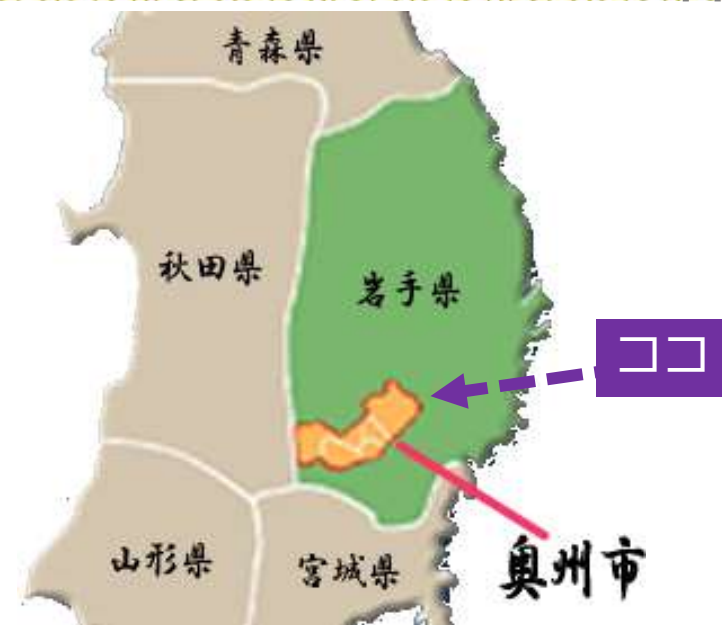
# 奥州市伊手地区の概況

- 人口1,581人、637世帯、高齢化率51%、9自治会

- 5,000haの広大な面積の67%が山林、農業が主産業（米、和牛、りんごなど）
- 中学校は昭和53年に閉校、伊手小学校は令和5年3月をもって閉校

- 伊手振興会

- 伊手地区センター（旧地区公民館）の指定管理を受託、専従職員4名
- 生涯学習事業、地域づくり事業、児童館他



耕地面積 609町歩  
認定農業者 1名  
集積率 10%





# コミュニティ計画の策定から農村RMOへ

## ■コミュニティ計画の策定

### ●ていねいな対話の場づくり

R5.3で  
伊手小学校が  
閉校に



小学校跡地で  
農福連携をしたい！



48歳りんご農家

R2.9～

現状の把握、進め方の検討、人集め

R2.12

第1回  
検討会

計画策定の趣旨とスケジュールの合意

R3.1

住民アンケート（全戸）

R3.2

第2回  
検討会

アンケート結果、地域課題について

R3.3

伊手振興会理事会で中間報告

R3.5

若者ワークショップ

R3.5

第3回  
検討会

伊手振興会事業の棚卸し

R3.6

第4回  
検討会

これから取り組んだらいいと思う事業

R3.7

第5回  
検討会

テーマ別事業計画の絞り込み

R3.10

第6回  
検討会

コミュニティ計画の素案検討

# 令和4年度から農村RMOモデル形成事業をスタート R4.10～

## ■協議会構成員（受け皿）

- 伊手振興会（住民自治組織）
- 農地・水伊手活動組織
- 伊手中山間連絡協議会
- 株式会社菅野農園

\* 事務局：伊手地区センター



閉校した伊手小学校と  
キーパーソンの地区センター長  
境田氏（当時66歳）

## ■活動内容

### 農用地 保全

- 遊休農地活用
- 有害鳥獣対策

今の農地全部は  
守れない

### 地域資源 活用

- 小学校の跡地活用
- 湧水を活用したブランド米づくり

### 生活 支援

- 自家用有償運送
- 有償ボランティアの仕組みづくり



地区センター職員4名と  
農村RMOで雇用した若者1名  
が事務局を担う



# はじめてみたもののうまくいかないことばかり

■ 1年目（令和4年度）

## 農用地 保全

- 遊休農地活用
- 有害鳥獣対策

今の米価じゃ、後継ぎなんていない。  
10年後なんて、考えられない。



## 地域資源 活用

- 小学校の跡地活用
- 湧水を活用したブランド米づくり

市「学校は売りたい」  
「ほんとにやれるの？」



## 生活 支援

- 自家用有償運送
- 有償ボランティアの仕組みづくり

他人に頼るほど  
困っている人はいない



# 先に、鳥獣害対策をスタート

## ■イノシシが着実に北上中

- 令和3年：目撃情報程度
- 令和4年：いくつかの田んぼに入る
- 今年：田や畔を掘り起こしている場所が増えた

有識者を招いて  
有害鳥獣対策の勉強会



非農家も含め、  
みんなで取り組むべき課題

みんなで取り組む  
小さな成功体験になれば。



これから本格化する  
**イノシシ被害他**  
**有害鳥獣被害から**  
みんなで伊手の農地を守る  
未来を守る勉強会

参加費無料  
定員 100名  
※伊手地区外の方も  
参加可能です

今の対策ありますか？

どんどん増えます

令和5年  
**9月12日**  
10:00～12:00  
伊手地区センター

講演  
野生生物研究所  
ネイチャーステーション  
古谷益朗氏

学生時代は筑波大学の雑木林と野鳥をテーマに写実家  
活動を始め、増えることも動物自然公園設置を  
期して、埼玉県農業技術研究センターにおいて鳥獣害対策  
を研究し、2018年に鳥獣害対策推進員として活動。鳥獣害対策推進  
の専門家として、NHK「ダーウィンが来た！」  
「さわやか自然百景」の撮影協力もしている。  
鳥獣害被害農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。

主催：伊手農村農業活性化協議会 <事務局 伊手振興会>

野生生物研究所ネイチャーステーション

**古谷益朗氏**

雑木林と野鳥をテーマに活動後、こども動物自然公園や農業技術研究センターで鳥獣害対策を担当。現在は野生生物研究所ネイチャーステーション代表。NHK「ダーウィンが来た！」などに協力。農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。





# 自動カメラの設置



被害の多い場所で  
カメラが設置できる場所  
探し

カラフルなテープは  
全く効かない。  
なのに、店やJ Aが売ってる。



埼玉からお招きした  
専門家の先生





# 「けもの大学」に発展

- 毎年4回の講座、地区内外から多くの参加者あり



地区内の手づくり  
電柵視察



シカ肉、イノシシ肉の  
試食



今年度も  
やります！

参加費  
無料

※伊手地区外の方も  
参加可能です

## けもの大学開校 オープンカレッジ2025

有害鳥獣対策に対する知識を学んだり、伊手地区内で実際に  
実践したりする「けもの大学」。QRコードから、ぜひお申込みください！

**学んで**



**実践**



**今年度新設！**

### 基本コース

昨年度とほぼ同じ内容で今年度も開校！途中からの  
参加や、昨年度受講者の再受講も歓迎します。

- 第1回 「鳥獣被害対策の最前線」  
..... 2025年 7月7日(月) 13:30~15:00
- 第2回 「正しい侵入防止対策を知る」  
..... 2025年 8月28日(木) 13:30~15:00
- 第3回 「けもの生息環境を管理する」  
..... 2025年 10月23日(木) 13:30~15:00
- 第4回 「けもの個体数管理を学ぶ」  
..... 2026年 1月15日(木) 13:30~15:00

### スマートコース

今年度はスマート捕獲をテーマに、実  
践研修を行います！講義の様子はアーカ  
イブ配信も行います。

- 第1回 「スマート捕獲とは」  
..... 2025年9月5日(金) 13:30~15:00
- 第2回 「スマート捕獲の実践①」  
..... 2025年11月13日(木) 13:30~15:00
- 第3回 「スマート捕獲の実践②」  
..... 2026年2月19日(木) 13:30~15:00

**場 所** 伊手地区センター研修室 / 会議室

**対象者** けものについて  
学びたい人なら誰でも

**申込受付** 伊手地区センター

**けもの大学 校長**  
野生物研究所ネイチャーステーション  
**古谷益朗 先生**

野生物研究の専門家として研修や NHK 番組の撮影協力を行  
い、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーも務める。

**お申し込みはこちら ▶**





# 鳥獣被害対策を進める・広げるコツ

## ■全員参加で見える化

- センターに大きな地図を置いて、みんなでシールを随時貼っていく。
- LINEグループで被害や目撃を共有し合う。







未利用果樹の活用  
→柿ソース  
→おもちゃづくり

地域おこし協力隊  
募集予定！



# ようやく、農用地の未来を描く

- 令和5年度の耕作実態を調査 → 地図に書く
- 12年後の耕作可能性を地図に書く



# ビジョンのつくり方 ～話し合いの進め方～

## ■ やりたかったこと

本当に水稻しているか

本当に水稻つくるか



守る農地

守り切れない  
農地



守り方

活用方法

作成した順番

守る農地、活用する農地  
(農地農業活性化ビジョン)

令和6年2月  
ワークショップ

12年後の作付け予想

令和5年11月  
ワークショップ

令和5年の鳥獣目撃・被害

令和5年9月作成

令和5年の作付け実態

令和5年6月作成+調査



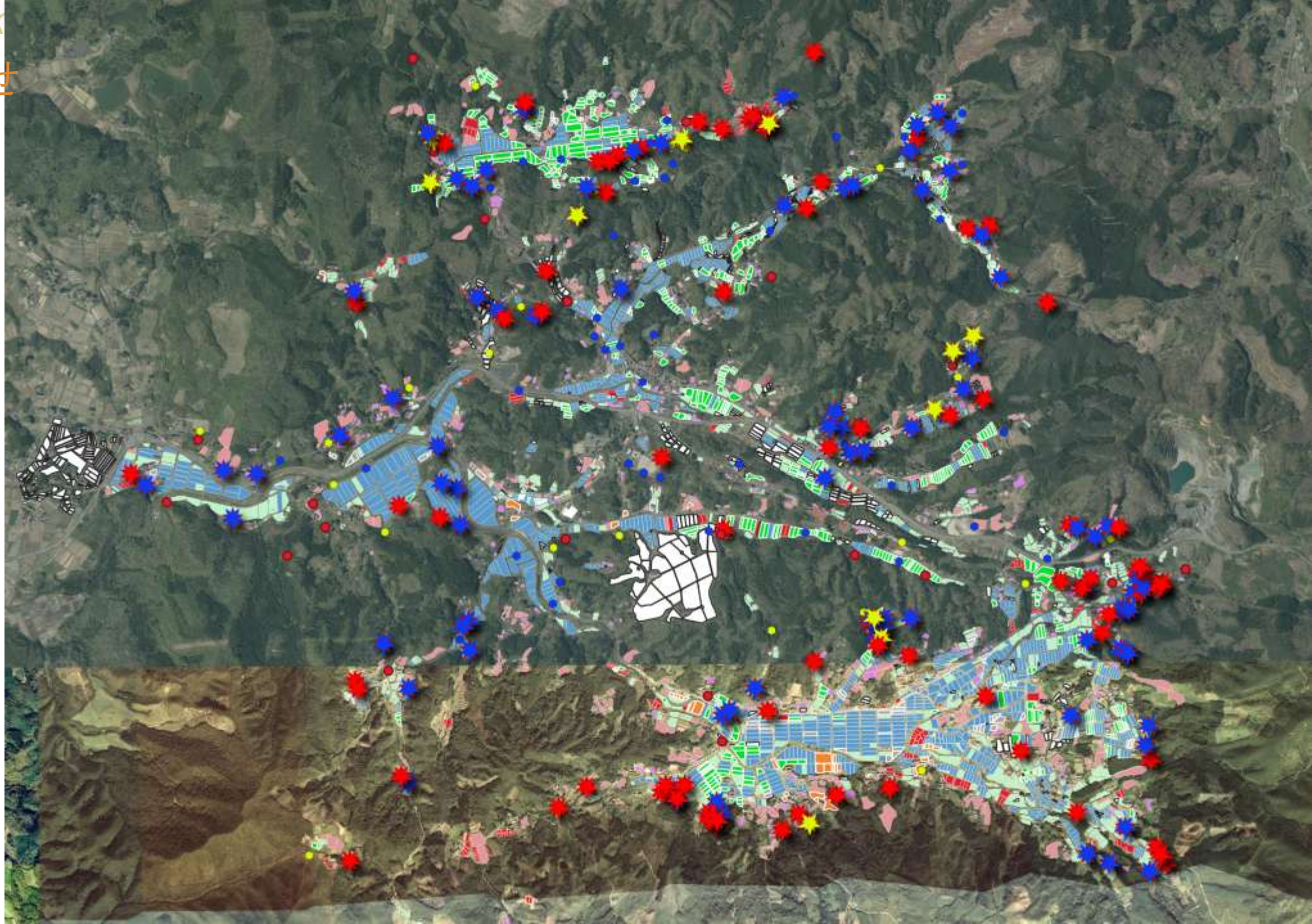
## 図面の重ね合わせ

### 農用地利用実態

- 水稲
- ホール稻
- 転作牧草
- 自主管理
- 放棄田
- 果樹
- 畑地
- 放置畑
- その他

### 鳥獣被害

- イノシシ見た
- イノシシ被害
- クマ見た
- クマ被害
- ニホンジカ見た
- ニホンジカ被害









# 守り方・活用の仕方の進化

## 守る農地

- 「地域まるっと中間管理方式」
- 中山間直払いのネットワーク加算取得



## 活用する農地

- ピーカンナッツの植樹





# 地域資源活用 小学校跡地活用

## ■ 1 年目：令和 4 年度

- R4.6 伊手小学校跡地活用検討チーム会議の立ち上げ
- R4.9 奥州市との協議
- R4.10 住民アンケート調査
- R4.10 勉強会
- R5.1 秋田県内 3 か所へ視察（にかほ、五城目、湯沢）
- R5.2 奥州市へ提言

## ■ 2 年目：令和 5 年度

- R5.7 サマーキャンプ
- ず〜っと改修工事に関する協議

## ■ 3 年目：令和 6 年度

- R6.7 サマーキャンプ
- ず〜っと改修工事に関する協議



金子君（28歳）  
神奈川出身、  
秋田県内に 2 拠点居住



苦し紛れに秋田県内に視察  
に行き、その時に出会った  
若者を伊手に誘う。



第3回 \おいでよ伊手!\

# しま〜きゃんぷ。

伊手地域をフィールドとして  
最大限に遊び尽くす! 2025



先着  
**40名**

2025年7月26日(土) ▶ 7月27日(日)  
(最少催行人数:15名) 10:00から 14:00まで

会場 伊手地区センター/伊手小学校/伊手地域全体

参加費 15,000円 ※税込・食費・保険料・体験費・活動材料費含む

早割 10%OFF 伊手割 10%OFF 兄弟割 15%OFF  
※早割の締め切りは7月10日まで ※割引の併用はできません

対象 奥州市内在住の小学4〜6年生

QRコードを読み取り、  
申込フォームより  
お申し込みください。



ボランティアスタッフの






活動をすると仲間が増える、若者が若者を呼ぶ。



金子氏は仲間の福井氏とともに  
伊手地区内の空き家を借りて  
3地域居住



1年目のサマーキャンプに参加した  
地元の若者が事務局に加わる。



2年目のサマーキャンプ  
昨年の小6がボランティアスタッフとして参加！

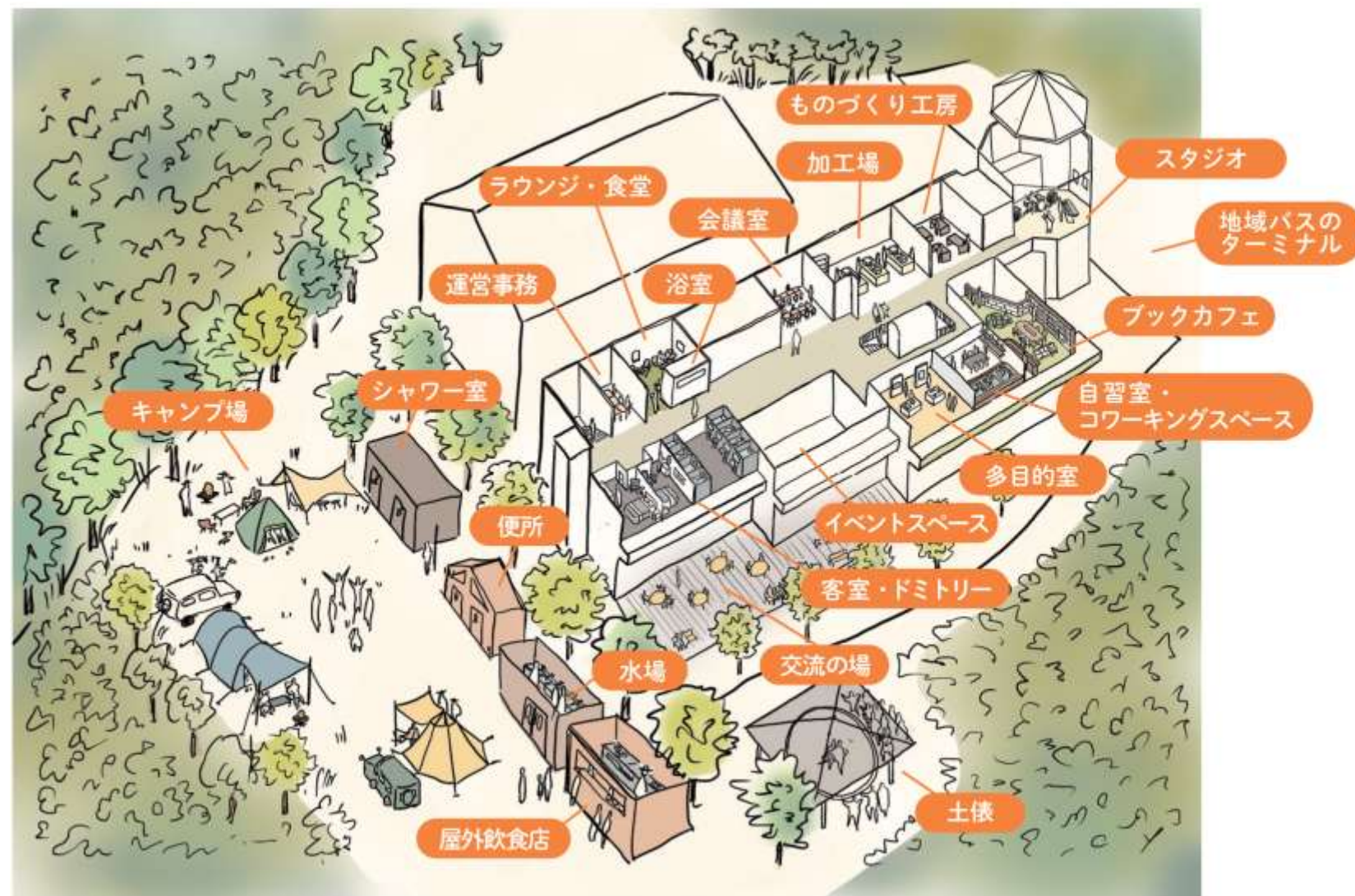


# 小学校も修繕し、活用できることに

- 令和7年度中に改修工事
- 令和8年4月から供用開始予定
- 小学校で稼ぐ予定



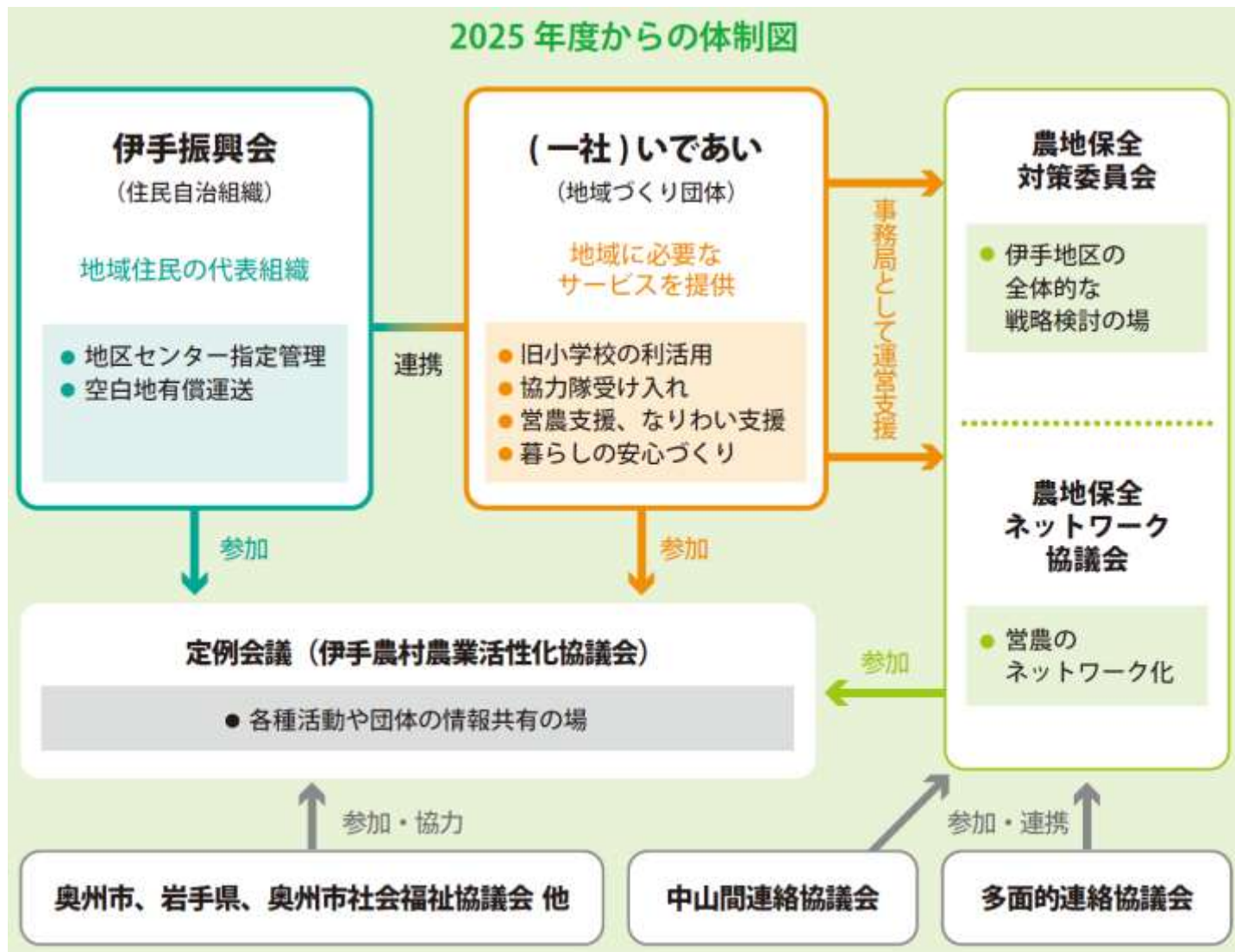
月1回の定例会に市も参加





# RMOの本格稼働

■ 社団法人を立ち上げ、若者も新たに雇用



小学校の2階で収益事業

&

集積農地の管理受託



# 生活支援 ～移動支援～

## 令和4年度

- 空白地有償運送スタート

## 令和6年度

- 買い物ツアー
- 通院支援

## 令和7年1月～

- タクシーの廃業を受け、タクシー代替の新しい運行事業スタート
- タクシーの半額で、補助なしで継続可能に。



2025年3月まで  
試験運行

## ＼伊手の／ おでかけをお助けする 2つのサービスおためし運用！

買物や病院へ、自宅から送迎します

買物したいけど運転が不安…。通院を人に送迎お願いするのは気が引ける。など、伊手農村農業活性化協議会がお助けします！

### サービス1 お買い物に！

#### いで おでかけワロン

岩谷堂方面のスーパー等をめぐる、  
買い物のための交通サービスです。

運行日	水・木曜日の午後 (決まった時間・路線を走ります)
行き先	岩谷堂方面の買い物施設 (薬王堂江刺店、イオンタウン江刺 しまむら江刺店、サンエー)
利用料金	1回 100円 (ガソリン代・保険代として)
利用方法	前日15時までに要予約
予約先	伊手地区センター 0197-39-2121

### サービス2 通院に！

登録制

#### いで 通院支援

車がない、送迎をお願いする人がいない  
人が、通院するための交通サービスです。

運行日	水・木・金曜日の午前 (1人につき月1回程度)
行き先	奥州市内の病院
利用料金	1回 100円 (ガソリン代・保険代として)
利用方法	2日前までに要予約 (事前の会員登録が必要です)
予約先	伊手地区センター 0197-39-2121

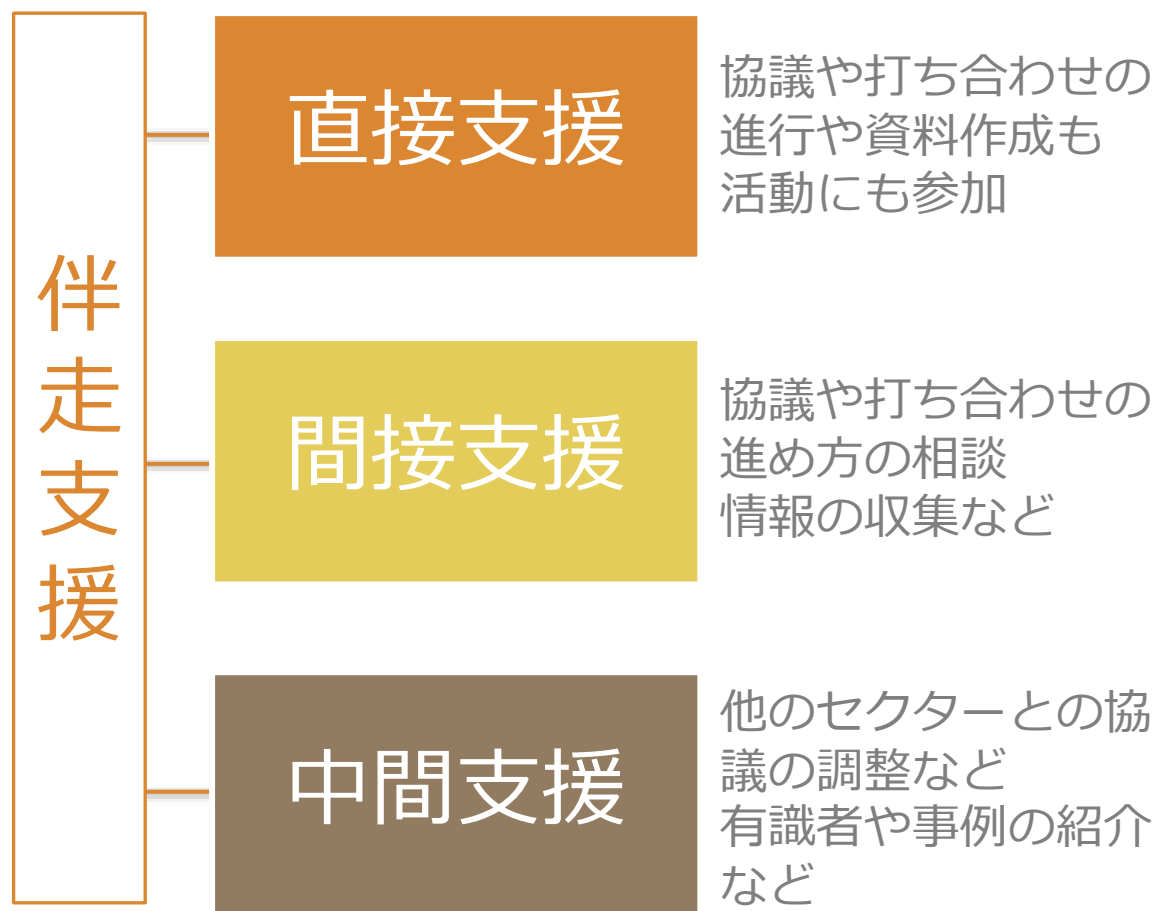
運営・運行：伊手農村農業活性化協議会 <事務局 伊手振興会> TEL:0197-39-2121  
農村 RMO モデル形成支援事業活用 (農林水産省)

詳細は  
裏面へ

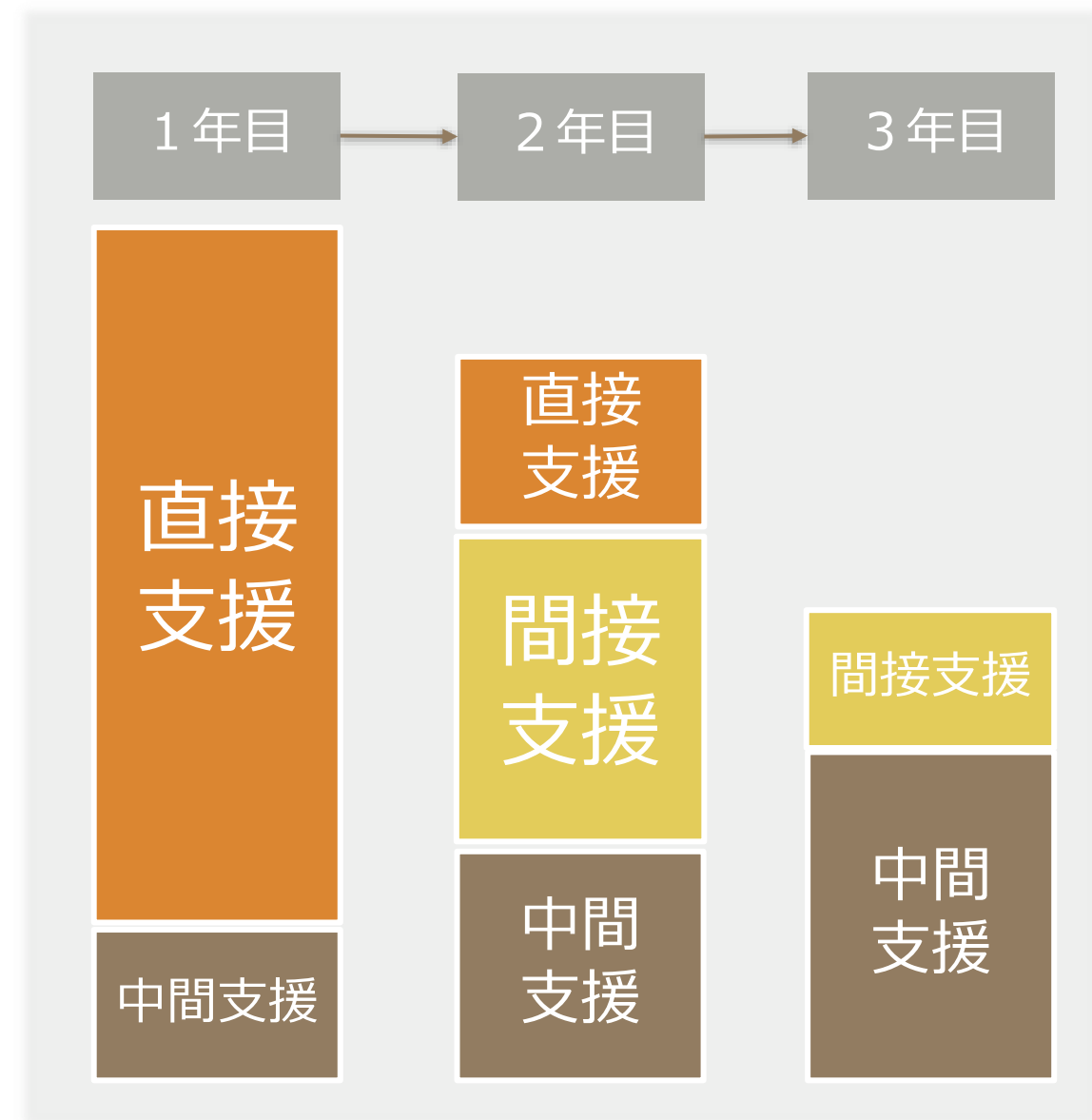


# おわりに ～伴走支援とは～

## ■ 3つの伴走支援の方法



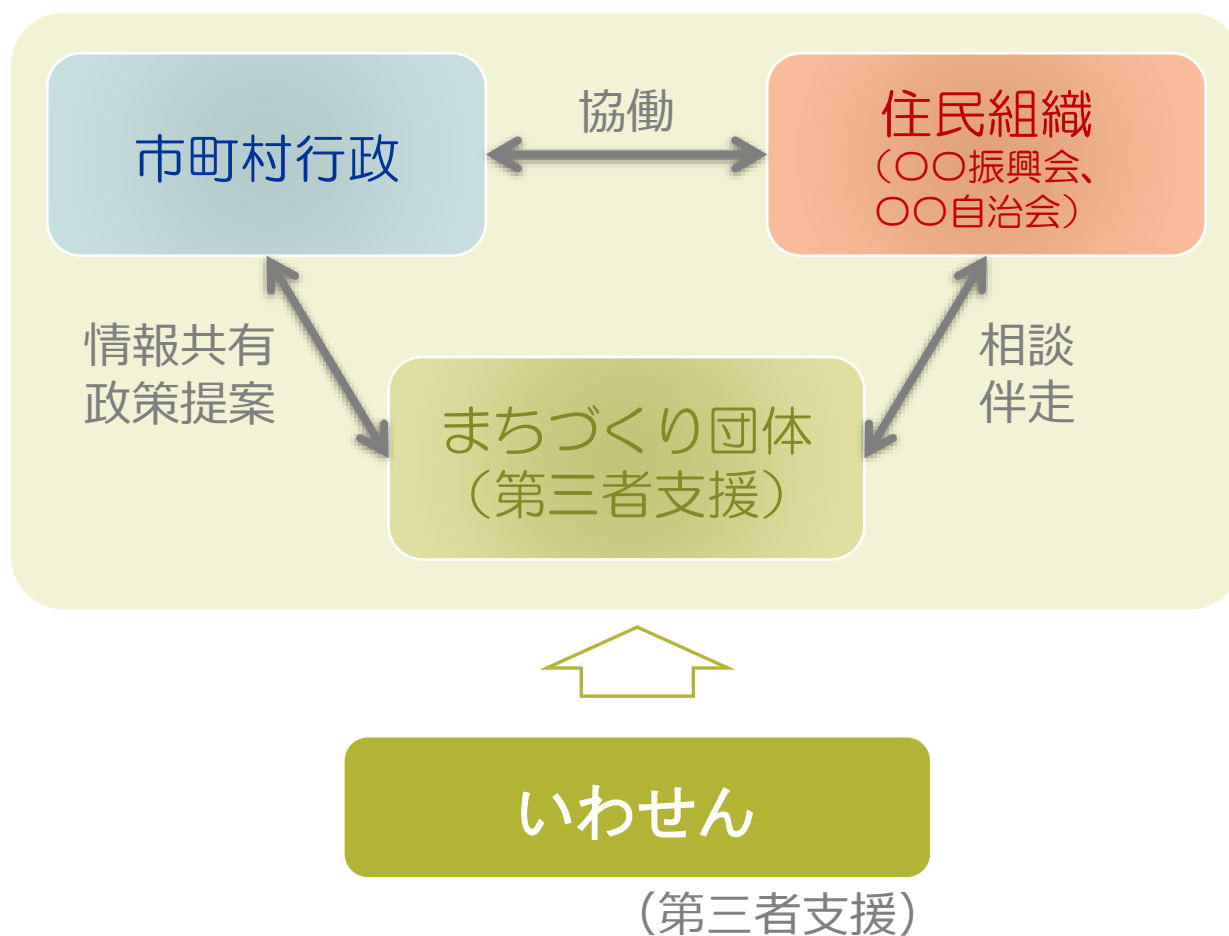
## ■ 支援の流れとメリハリ





# 伴走支援と中間支援

- プレーヤー、各セクターの関係性の向上
- 地域だけでだめなら、外から連れてくる力



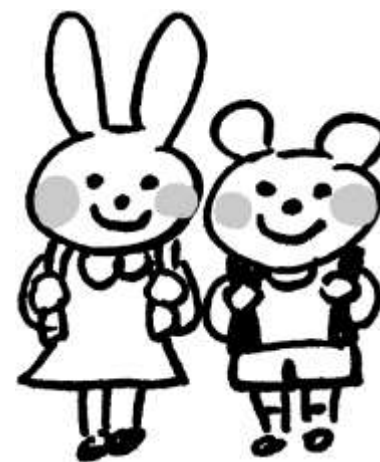
- 地域支援は子育てに似てる

地域によって個性も  
必要な支援が異なる

まずは地域の観察と理解が大切

100点をとることが  
ゴールではない

「生きていく力」を持つことがゴール



手段の目的化に  
要注意！



# 質疑応答・意見交換

## ■①自己紹介

- 名前、地域名、属性（仕事・役割など）

## ■②書く係を決める

## ■③「感想・質問」を順番に話す

## ■④「こんな伴走者いやだ」 / 「こんな伴走がいいな」を順番に話す

## ■⑤質問を1つ選ぶ

感想・質問

「こんな伴走者いやだ」  
「こんな伴走がいいな」